

適度なけんかが円満のコツ



鈴木三男さん(83歳) 鈴木澄子さん(83歳) 迫町・赤沼 昭和27年11月入籍

病気で入院した時はうんと心配したね。

★現在の楽しみは

【三男】晩酌だね。焼酎一合は必ずやるおん。飲む量は減ったけど、止められないね。

【澄子】野菜作りと孫・ひ孫と遊ぶのがな。

★夫婦円満のコツは

【二人】適度にけんかすることだね(笑)。

★やりたいこと

【二人】まだまだ家業の畜産を手伝いたいんで、おじいさんは運転免許の更新しねげね。おばあさんは足腰よえぐなつたけど、無理しねでべっこずつおどつてするべ。

離れていても心のよりどころはふるさと

季節の移り変わりは早いものです。つい先日まで、厳しい寒さが続いていたかと思うと、この「広報とめ」が手元に届く頃には、桜の花が満開を迎えていることでしょう。私たちは登米市から遠く離れていますが、やはり心のよりどころはふるさとです。

平成の大合併で登米市が誕生して10年。合併以前から市を構成する旧町ごとに、首都圏で町人会が結成され、活発に活動してきました。在京町人会は、もともと昭和25年代の集団就職世代が中心となり結成された会です。

遠藤 誠幸さん(76歳)

登米市在京町人会連絡協議会長 関東地区宮城県南方町人会長 南方町出身



戦後の復興期から日本経済は高度成長期に入りました。当時、貴重な労働力である中学校卒業生は「金の卵」と呼ばれ、関東方面に集団で就職。初めて経験する親元を離れての生活に、不安と寂しさを抱きながら上京しました。

その若者たちが励まし支え合うような、そこへ行けば田舎の人に会える、お互いに大きな声で方言そのまま語り合える癒やしの場所。都会の砂漠の中に「田舎」というオアシスを求める気持ちの結集が、ふるさと会創立の原点でした。

また、これらの町人会を組織化し、連携の強化を図り、登米市発展のために一致結束して活動しようという趣旨で、7年前に登米市在京町人会連絡協議会が発足しました。その後、東日本大震災が発生し、各町人会は被災地に義援金や食料、日常生活用品の支援を行いました。これからも、ふるさとで培った「苦しい時にこそ人に対する思いやり」「人と人とを結ぶ絆」を大切にして、小さくとも温かい心の灯りをともし続けて行こうと思っています。

町人会が、今後も登米市発展のために少しでもお役に立てればと思っています。

旬の果物イチゴ

Q今の季節、お薦めの農産物を教えてください

この季節、旬を迎えるのはイチゴで、駅に置いてある商品は全て地元農家が栽培したもので、100%米山産です。主力品種は、宮城県オリジナル品種の「もういつこ」や「とちおとめ」。1日200ケース売れることもある人気商品なんです。

新鮮なものをより多く取りそろえているので、皆さんぜひ足を運んでください。

おらほの道の駅

道の駅米山 「ふる里センターY・Y」



米山町の魅力の一つ チューリップまつり



道の駅米山 山崎準一郎さん 駅長

今月は、米山総合支所の隣にある、道の駅米山「ふる里センターY・Y」の山崎駅長にお話を伺いました。 Q道の駅米山の特徴やお勧めのイベントを教えてください

地内には、迫力ある横綱の銅像と土俵があり、昨年は東北高校相撲選手権大会が開催されました。 うちの春のイベントと言えば「チューリップまつり」。駅西側の農地約1畝に約10万株、60種の赤や白、黄、ピンクなどの色とりどりのチューリップが咲きそります。花は、同町姉妹都市の富山県入善町などから、球根を購入し育てたものです。まつりは4月26日から5月10日まで。期間中は、相撲大会や歌謡ショーなど、イベントが盛りだくさんです。身頃は5月のゴールデンウィーク頃となり

まちの文芸

俳句・川柳

●6月号は短歌です。住所・氏名・電話番号を記入し5月7日まで応募ください。作品には全てふりがなを振ってください。●応募者多数の場合選考して掲載します。

俳句 つくしんぼ土手から匂い放してる 土竜塚の土新しき雨水かな 地虫出づ鴉の漁る空畑 桜草友と語らう窓辺かな 催花雨や解れて一輪玉つばき 花言葉初恋といふさくら草 独り居の二階を灯す紫木蓮

菅原たろ子(迫) 及川(裕子)(東和) 千葉(勝保)(東和) 浅野喜代子(中田) 黒田(律子)(中田) 佐藤(昭)(中田) 二木ゆきこ(中田)

川柳 桜咲く希望一杯の門出かな おぼろ夜や一窓灯る桃山城 臍月酸素の管を引きずりて 白鳥や鈍色の空幾千里

石崎よしの(米山) 浅野のり子(津山) 西條(邦泰)(津山) 高橋ちよの(津山) 山内たろ子(迫) 熊谷(洋子)(中田) 高橋とく子(豊里)

応募総数 29 作品